「獣がい」対策を探る

畑地区で全7回 「実践塾」スタート

野生動物が農作物に被害をもたらす獣害の対策を通じ、地域活性化の方法を探る「獣がい対策実践塾」（丹波篠山市獣がいフォーラム実行委員会主催）がスタートした。4年目を迎える今年は、昨年に続き畑地区をフィールドに全7回の予定。初回が5月29日に菅であり、参加者たちはサル用電気柵の設置を体験した。

今年度のプログラムは、サルの追い払いや獣害柵点検、野生動物の調査、ジビエの活用などの実習を予定。参加無料。

講師は、神戸大大学院人間発達環境学研究科准教授の　さん、兵庫県立大自然・環境科学研究所教授の　さん、NPO法人・里地里山問題研究所（さともん）代表理事の　さんが務める。

初回は、丹波篠山市内をはじめ、丹波市、西宮市などからも参加があった。篠山東雲高校、篠山鳳鳴高校の生徒、神戸大の学生らも参加。地元住民も協力し、総勢約40人で作業した。

サルに狙われていると所有者から相談があった畑の周囲で、約200㍍にわたって通電式防護柵を設置。気温30度に迫る暑さの中、下のすき間から動物が侵入しないよう、細心の注意を払いながら柵を張った。昼には、地元住民が手作りした、地元食材を使ったみそ汁やちらし寿司などに舌鼓を打った。

参加した　さん（47）＝住吉台＝は「農家の苦労は予想以上。人と動物の共存方法について学んでいきたい」と話した。みたけの里づくり協議会の　会長（70）は「若い子と接する機会も減っているので楽しい」と交流を喜んだ。

問い合わせは、さともん事務局

サル用電気柵の設置を体験する参加者たち＝丹波篠山市菅で

2022年6月12日
丹波新聞